

## 第1回稲毛区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日時：平成16年7月25日（日）午前10時～11時40分

場所：稲毛区役所 3階講堂

出席委員：25名中 22名出席

事務局：保健福祉局 川又次長  
稲毛区 松本区長  
保健福祉総務課 片岡参事、皆川主幹、北田補佐、高須主査、  
和田副主査、仙田主事、西森主事  
健康企画課 海保主任主事、赤岩主事  
稲毛区福祉事務所 小澤主任主事、田村主事、松澤主事  
社会福祉協議会 青木主査

関係者：1名

傍聴人：0名

### 会議内容

次第に従い、開会后、松本稲毛区長が挨拶。

その後、各委員が自己紹介を行った。

自己紹介後、議題に移った。

### < 議題 >

#### (1) 会議の公開について

委員に区策定委員会の公開・記録についての意見を聴いた。

公開・記録についての異議はなかったので、今後の区策定委員会は公開し、記録又内容についてはインターネット等を通じて市民に周知する。

#### (2) 各地区フォーラムの取組状況について

資料を基に各地区フォーラム委員長が第3回地区フォーラムまでの課題の検討について報告した。

#### 「山王・草野地区フォーラム」(鈴木委員長)

第1・2回で34件の問題を分類した。

Aグループ8人・Bグループ7人で取り組んでいるが、進んでいく中で考えたことは、地区にはいろんな組織団体があるが横の連携がとれていないということである。とれていれば、もっとスムーズにフォ

ーラムの進行ができたのではないか。

障害者の問題については勉強不足でなかなか進まなかった。

( Aグループ )

「居場所・交流・社会参加・交通」については、高齢者の場合は、何をしたいかわからない。地域に密着した場所がない。交通の便が今後の問題。

児童については、子どもルームの密着体制、学校がどう捉えているか。

障害者については、知的障害の場合は地域の一体感をいかに育てるか、検討が必要。非常に難しい問題である。

身近な場所で気軽な場所をいかに確保するか。学校の空き教室を利用するなど。

( Bグループ )

「人材育成・福祉教育・こころのバリアフリー・ボランティア・NPO活動」については、障害者に対する専門知識を有する人を育てる必要がある。研修会を開催するなど。

障害者が一番困っている。問題が問題だけに難しい。

自治会では連協、福祉では社協、民生委員の連携をとっていくことが必要である。

「千草台中学校・緑が丘地区フォーラム」( 田村委員長 )

1 回目は事務局から趣旨説明、2 回目は出席者が少なかったため、1 グループで討議、3 回目は2 グループに分かれて行った。40 項目の問題がでてくる。

問題は高齢者関係が多い、独居高齢者に対しての支援をどのように行っていくか。障害者は交流、地域で暮らしていくために支え合っていくにはどうしたらいいか。子どもについては居場所、青少年の地域での暮らし方について、その他については、外国人の方の暮らし方についてなどの意見がだされた。

今、問題となっているのは、進め方について不安があることから再度話し合いをすべきではないかということで、次回もう一度、話し合うことになった。

区分では、捉えきれない問題がある。細かいキーワードの設定をしている。思いのある方が多い。きれいな形にならないかもしれないが、

みんなで作っていったって、何か形に残せればと思っている。

#### 「轟穴川・301地区フォーラム」(原田委員長)

##### 1 経過について

宿題で書いてきた問題を発表、皆さんの思いを述べて頂いた。3回のフォーラムでAグループはきれいにキーワードに分類ができなかったの  
で、臨時に区策定委員で集まって取りまとめた。

##### 2 轟穴川・301地区フォーラムの特徴

若葉区のキーワードにとらわれることなく、独自のキーワードを設けた。  
(「理解」・「子育て」など)

A・B両方とも同じ問題を検討していくことになった。

資料に示した他に大切にしたいキーワード「分野のバリアフリー」を  
あげている。高齢者・児童・障害者の分野を取り除いて一体的に考えて  
いきたい。

##### 3 今後の進め方について

多様な市民の方の声を反映していかなければならない。

自助・公助・共助、課題について検討するのみでなく、タウンウォチ  
ングやマップづくりなど行っていくことができたらし声がでている。

どのように自主運営をしたらよいかよくわからなかったの  
で、事務局を含めて打合せを行った。

プロセスが大事だと考えている。

#### 「稲毛・稲丘・小中台地区フォーラム」(飯田委員長)

基礎調査報告・取組状況を読むと区内4地域の差がかなりある。

第1回では、計画の趣旨説明、自己紹介などを行った。

第2・3回では、区策定委員の選任、問題をKJ法により分類分けを  
行った。Aグループは8つ、Bグループは4つの課題を検討すること  
になった。

解決策の検討について、まず、何からやろうかということで、取り組  
みやすい「交流・居場所・社会参加」から検討することにした。

高齢者・障害者・児童・その他の区分ごとに取り組み、その中で共通  
点を出していくことになった。また既存の施設をどう利用するかを基本  
的に考えていこうということになった。

高齢者の場合、居場所の現状はどうかというと、老人つどいの家、公

民館などがある。

実態把握については、民生委員の役割ではないか。東京では、梅干し1個持って民生委員が高齢者の把握をしている、社協で梅干しを用意したらどうか。

高齢者を、外に出していく取り組みはどうか。外に出て行くようになれば、介護保険料の軽減につながるのではないか。自治会活動のあり方、老人クラブの名称を「人生大学」としてはどうか、カルチャースクールの充実することが必要ではないか。

その他として、一日学校を解放して高齢者・児童・障害者の居場所にしてはどうかなど、次回も引き続き検討していく。

Bグループは、マップなどを基に次回検討していく。

既存の施設を有効活用し、居場所・交流・社会参加に活かしていきたい。保健福祉センターができたあと、保健センターを児童館などに活用にするなど計画に盛り込んでもらいたい。

千葉市で一番いいものを作っていきたい。

#### < 取組状況に関する質疑応答 >

委員： 資料は事前に配布して欲しい。

私の入っている老人クラブの名称は「ゴールド轟」と名前を変えている。

災害のてびきはないのか。障害者用の災害の手引きもあるはずである。ないのであればもらってくる。

委員： 障害者は、避難場所などわからない人が多い。また、障害者に対しての避難所に行った際の配慮が必要。災害発生時の補聴器の電池、視覚障害者のガイドヘルパーなどの問題がある。

委員： 補足として、阪神淡路大震災の際、知的障害者は避難所での住民の理解を得られず、倒壊しそうな家に戻って生活したときいた。

#### (3) 委員長、副委員長の選任について

4名の地区フォーラム委員長の中で話し合いで決めることになった。

地区フォーラム委員長4名の話し合いで、原田委員が委員長を田村委員が副委員長として選出され、他の委員にも承認を得た。

#### (4) その他

特になし

以上